

日本ホメオパシーセンター札幌南2条／自然療法スポンタネア

JPHMA 認定ホメオパス No.0661

ZEN メソッド修得認定 No.0065

藤山 道子（ふじやま みちこ）

【タイトル】

期外収縮と心房細動による不整脈発作が激減～そして心も軽やかに

【要約】

20年前に期外収縮、7年前に心房細動を発症し、服薬で対応しているが、動悸・頻脈の発作の増加に悩まされている50代女性。ホメオパシー健康相談会数回で発作回数が減少し、2年足らずで「もう動悸は感じない」というほどに改善。また、パニック症や、十二指腸がんをはじめとする多くの病気経験からの不安症にも改善が見られ、今までできなかった外出・旅行を大いに楽しめるようになった。

【主訴・症状】

- ・突然始まる不整脈発作（おもに頻脈。たまに脈が飛ぶ）
- ・パニック症で乗り物が苦手（飛行機は無理）
- ・十二指腸がん手術後の定期健診への恐怖（気絶しそうになる）

【経緯・タイムライン】

- 28歳 結婚 神経性胃炎になる
- 30歳・34歳 帝王切開で出産2回
- 35歳 自動車の車内で突然動悸・息苦しさ・不安→パニック症候群の診断
- 39歳 卵巣嚢腫手術(右卵巣摘出)
- 42歳 期外収縮を発症
- 43歳 突発性難聴
- 49歳 胆石手術
- 54歳 兄死去 その後、期外収縮による不整脈が増える
- 55歳 十二指腸がん内視鏡手術、不整脈発作が激しく救急車 →心房細動の診断を受ける

【手法、レメディー選択、経過】

◆2019年3月 健康相談会初回

・随時：MT)サポート心臓

・朝1：Ars. LM1

・朝2：Phos. LM1 + Syph. LM2

・夜：Chin. LM3

MT)サポート心臓：負担のかかっている心臓をケアするため。

Ars. (ヒ素)：病気不安の傾向に合致。

Syph. (梅毒)：急激な症状の悪化を防止する目的で。

Phos. (リン)：もともと神経と胃が弱い傾向、および心臓の問題から根本体質として選択。

Chin. (キナ皮)：循環機能の乱れ、間欠的な周期性、既往である胆嚢の障害 (=胆石) にマッチ。

⇒経過

「不整脈は出るが長続きしなくなった。Ars.は毎朝1回のほかに、不安になったときにもとる。すると、とてもほっとする。」

◆2020年2月

定期的に健康相談会を受けてレメディーをとることで、波はありつつ不整脈は改善傾向にあったが、鍼灸院でハイボルト治療(高電圧の電気を短時間で流す)を受けた後、発作が急に増加。1か月のうちの半分は発作がある。強く大きい鼓動が続く。とても不安でパニック症状も多く出る。

・随時：MT)サポート心臓 + Elect. 30C + Cupr.6C + Zinc.6C

・朝・夜：MT)サポートミネラル + Ars. LM12 + Phos.LM13

Elect. (電気)：高圧の電気刺激による影響に。トートバシー(同一療法)として選択。

Cupr. (銅)：電気伝導性がある銅から作られたレメディー。心臓の痙攣や収縮に関係。

Zinc. (亜鉛)：神経の疲労と、じっとしていられないような肉体・精神のそわそわ感。

MT)サポートミネラル：疲弊した体の立て直しに重要な体内ミネラルバランスのサポート。

※他はこれまで奏功しているレメディー。内容と選択理由は2019年3月を参照。

⇒経過

「発作が一気に減った。たいへん調子が良くなり、数年ぶりに泊りがけの外出ができた。」

◆2022年7月

不整脈の改善とともに外出・行動範囲を広げている。船での旅行、飛行機での旅行にもチャレンジ。不整脈は緊張する場面では出ることがあるが、ホームキットのレメディーを使いセルフケアで対処できる。普段は発作がない。ただ、新たな症状として、昼食後に決まって無痛の下痢が起こるようになってきている。

・随時：MT)バレリアナ + Aloe. 6C + Lil-t. 6C

・朝：Ars.LM3 + Phos.LM3

・夜：Podo. LM5

不整脈の改善に代わるように消化器系の症状が顕著になったのは、「病気になったのと逆順序で治っていく」過程と評価。ポーテンシーを上げながら続行してきた Ars. と Phos. がその治癒の推進力を担ったと思われるので今回も継続。

加えて、現在の症状に対して以下を選択。

MT)バレリアナ (カノコソウ)：神経過敏や緊張からの諸症状。

Aloe (アロエ)：腸にごろごろいう音、食後に悪化する切迫感、不安感、水様の便で疲弊。

Lil-t. (オニユリ)：精神症状と心臓症状の関連、切迫する便意と下痢が続いている。

Podo. (アメリカマンドレーク)：十二指腸、小腸、肝臓、直腸に関係するレメディーであり無痛の下痢症状にも適合。

⇒経過

「下痢症状は、かなり改善した。

以前は気を失いそうになったこともあるほど恐怖を感じていた十二指腸がん術後の定期検査（内視鏡検査）で、なんと眠ってしまったのに自分でもびっくりした」

【結果】

- ・今や不整脈はほぼまったく出ていない。
- ・そのため病院で処方されている発作時用の頓服薬の出番がほとんどなくなった。
- ・病院で定期検査のたびに見舞われていた、がん再発の不安がなくなった。
- ・パニック症のため極度に苦手としていた乗り物で移動ができるようになり、とうてい無理とあきらめていた飛行機にも乗れるようになった。今では海外旅行にも出かけている。
- ・現在の主訴は、軽い胸焼け感と、起床時の口の中の苦さに変わり、いずれも強い症状ではないものの健康増進・維持のために健康相談会をゆるやかなペースで続けている。

【考察】

心房細動は自然治癒があまり望めない疾患で一生付き合っていくものと言われるが、レメディー開始から次第に発作の頻度が減っていったことでクライアントは手ごたえを感じ、じっくり健康相談会に通い続けてくれた。「発作が出て苦しいときには我慢せずに頓服薬を使用し、焦らずゆっくり進もう」と最初に話したうえで開始したのも、よかったかもしれない。

メインとなるレメディーは、クライアントの既往や気質・体質からいって、終始変わらず Ars. と Phos.。

これをポテンシーを上げながら LM アルポで長くしっかり続けられたことが改善を確かなものにしたと感じる。

改善の過程では、不整脈が無くなる代わりに過去に不調が多かった消化器の症状が出てきたり、昔悩まされた偏頭痛やヘルペスが短期間出たりと、ヘリングの治癒の法則のひとつ「新しい症状から古い症状へ」という〈逆順序〉が当てはまったのも興味深い。なお、それらの突発的な症状はその都度、ホームキットからレメディーをとってもらい、速やかに改善している。

不整脈が改善するとともに自分の体への信頼感が増していき、病気・病院恐怖、乗り物恐怖（パニック症）が薄らいでいったのもまたとても素晴らしいことだった。

クライアントは今や、大の苦手だった飛行機に年に何度も乗り、海外旅行にまで飛びたっている。人生が豊かに楽しみ多いものになった！という喜びはさらにバイタルフォースを賦活するはずで、健康度がより上がっていくと期待できる。これからもさらに輝いていく姿を見させてもらうのがとても楽しみである。